

所得の地域格差

三田村拓哉

西脇諒

天野竜佑

後藤ひなの

松本紗愛

小野莉央子

研究の概要

- 所得の地域間格差と信頼等の関係性に関する研究

ジニ係数とは

- 0 から 1 までの数字で表される係数
- 所得が完全に平等の場合は 0、所得格差が大きいと限りなく 1 に近くなる
- 0.4 を超えると危険とされている
- 2014 年度 年間収入のジニ係数
(2人以上の世帯)
全国 0.301

先行研究

信頼、ソーシャルキャピタルとは

- La Porta et al.(1997):社会的に効率的な結果を生み出すため、また囚人ジレンマにみられるような非効率的な非協力の罠に陥ることを避けるために社会内の人々が協力する性向

既存研究(1)
Knack and
Keefer (1997)

- データ: 29か国 クロスセクション
- 分析方法 重回帰分析
- ソーシャルキャピタル(信頼, 規範)
⇒各国の経済成長率 ↑
- 有意で正

信頼の高い、 低い社会とは

- Knack and Keefer (1997)
- **信頼度の高い社会**: 非合法的な所有権が侵害されることは少なくなり、所有権を守るために必要な費用を下げる。
- **信頼度の低い社会**: まじめに働くかどうかをチェックしないといけなくなり、費用が高くなる。それゆえ、生産性が低くなる。

既存研究（２）

滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所 共同研究

- ・ ソーシャル・ キャピタルが豊かな地域

人口の社会増、社会減の抑制、経済水準、出生率の引き上げ、女性の活躍促進、要介護状態の予防等

地域においてソーシャル・キャピタルを高めていくことは、地域活性化のみならず個々人の生活満足度の向上にも有効である。

規範(協調性) とは

- **規範(協調性)が高い:** 自身の利益を追求するような行動をとることによりかえって自分の利益を下げるような望ましくない状況を避けることができる

先行研究の紹介(2) 要藤(2005)

- データ： 47都道府県 クロスセクション
- 重回帰分析
- ソーシャルキャピタル(信頼, 規範)
- →各都道府県の経済成長率
- 信頼： 有意でない 規範： 有意で正

信頼のデータ (1)~(3)の 平均値


- NHK 放送文化研究所が実施した「全国県民意識調査」を用いて指数化
- (1)「隣近所に信頼できる人が多いですか」にハイと答える割合
- (2)「親戚に信頼できる人が多いですか」にハイと答える割合
- (3)「職場や仕事場でつきあっている人に信頼できる人が多いですか」にハイと答える割合

規範のデータ(1) ～(5)の平均

- NHK放送文化研究所が実施した「全国県民意識調査」、「社会生活基本調査」及び県民一人あたり共同募金額を用いて指数化
- (1)「あなたは地元の行事や祭りには積極的に参加したいと思いますか」との質問に「はい」と答えた人の割合
- (2)今の世の中では、自分のことばかり考えて、他の人のことには無関心の人が多い」との質問に「そうは思わない」と回答した人の割合
- (3)公共の利益のためには、「個人の権利が多少制限されてもやむをえない」との質問に「そう思う」と答えた人の割合
- (4)ボランティア活動参加率
- (5)一人あたり共同募金額率

要藤(2005)との違い

- 要藤: 規範 → 経済成長 有意で正
- 本稿: 信頼や規範が各都道府県の格差にどのような影響を与えているのかを分析する



モデル

本研究のモデル

- $$Y_i = \alpha + \beta_1 X_{1i} + \beta_2 X_{2i} + \beta_3 X_{3i} + \beta_4 X_{4i}$$
$$i = 1 \sim 47$$

記号	記号の意味
Y_i	ジニ係数
X_{1i}	大学進学率
X_{2i}	信頼
X_{3i}	規範
X_{5i}	人口割合%

研究 1

推定方法

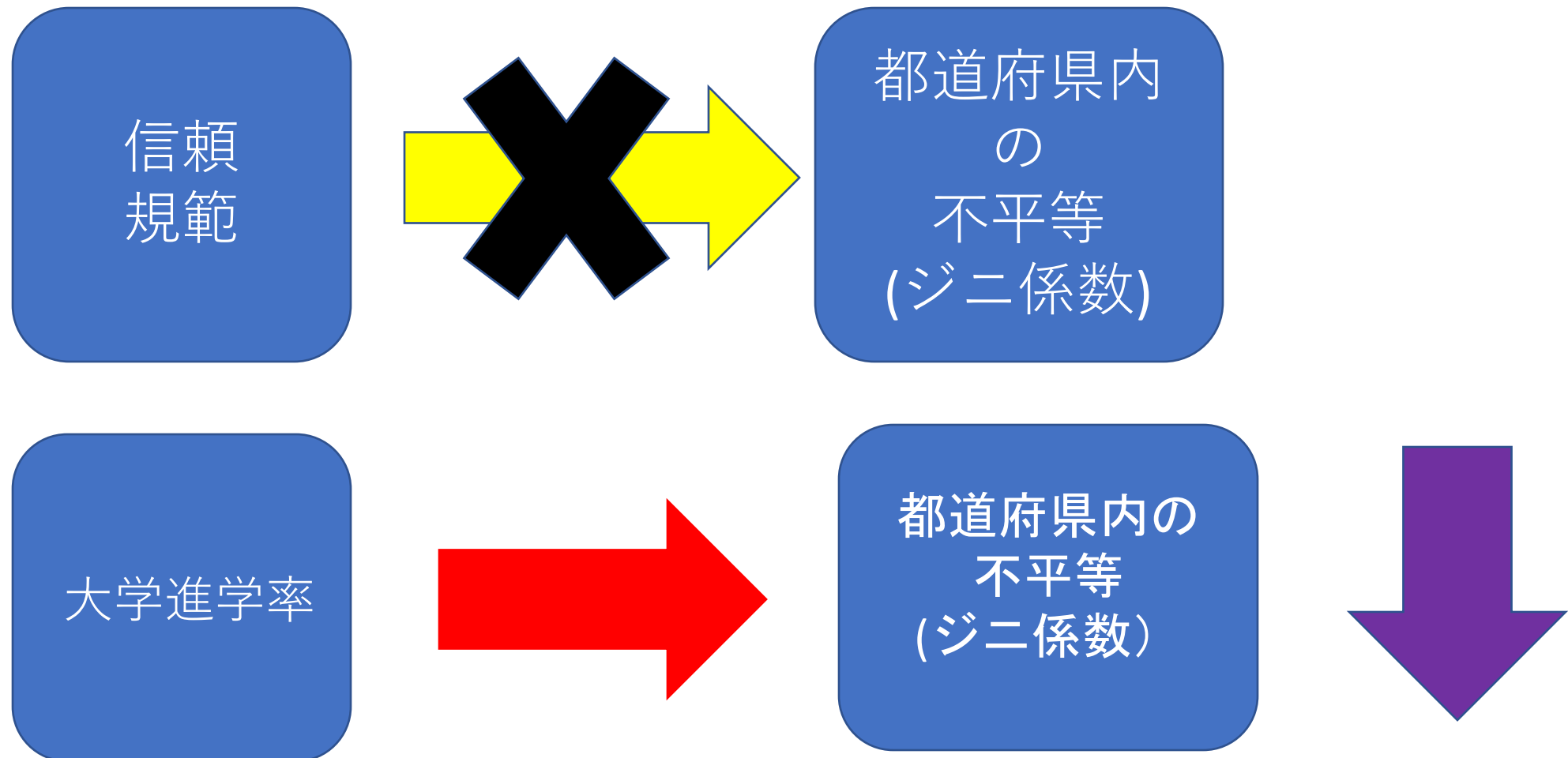
- 重回帰分析
- 47都道府県のクロスセクションデータ
- ジニ係数： 2004年
- ジニ係数以外： 1996年か（見つからない場合）1995年

推定結果

- (1) 信頼と規範は有意でない
- (2) 大学進学率は不平等を減らす
- (3) 信頼、規範、人口割合は平等に影響しない

	係数	P-値
切片	0.29	6.79
大学進学率	-0.0005	0.10
信頼	-0.001	0.66
規範	0.001	0.85
人口割合%	0.001	0.65

本稿の結果(1)



結論

- ソーシャルキャピタル(信頼・規範)は都道府県内の不平等には影響を与えていない
- 要藤(2005)によると、規範は経済成長率に正の影響を与えているので、格差に影響を与えることなく、経済成長率を高めることができるがわかった。
- 高い大学進学率は各都道府県の格差を低めることがわかった。

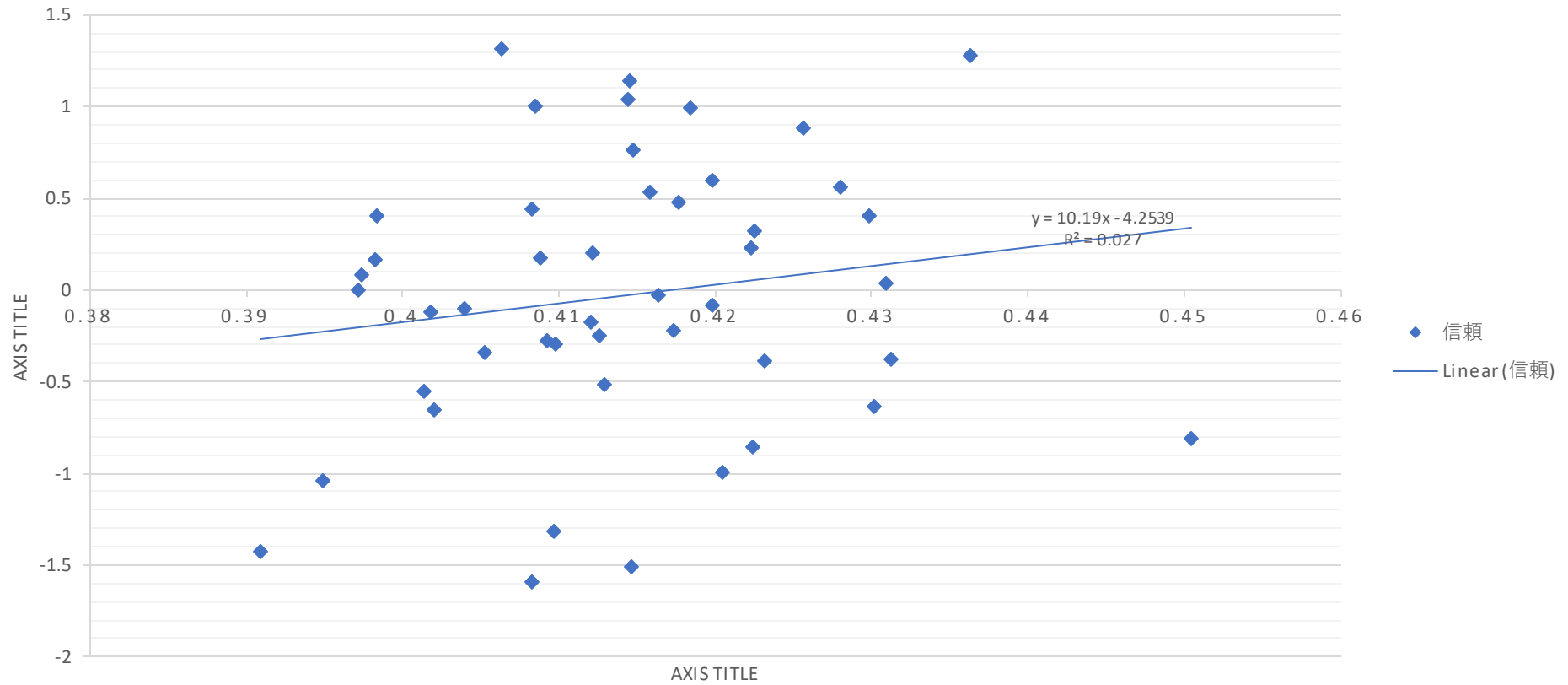
研究 2

推定方法

- 単回帰分析
- 決定係数
- 47都道府県のクロスセクションデータ
- ジニ係数：1999年
- 信頼と規範：1996年
- それ以外：1999年

信頼とジニ係数

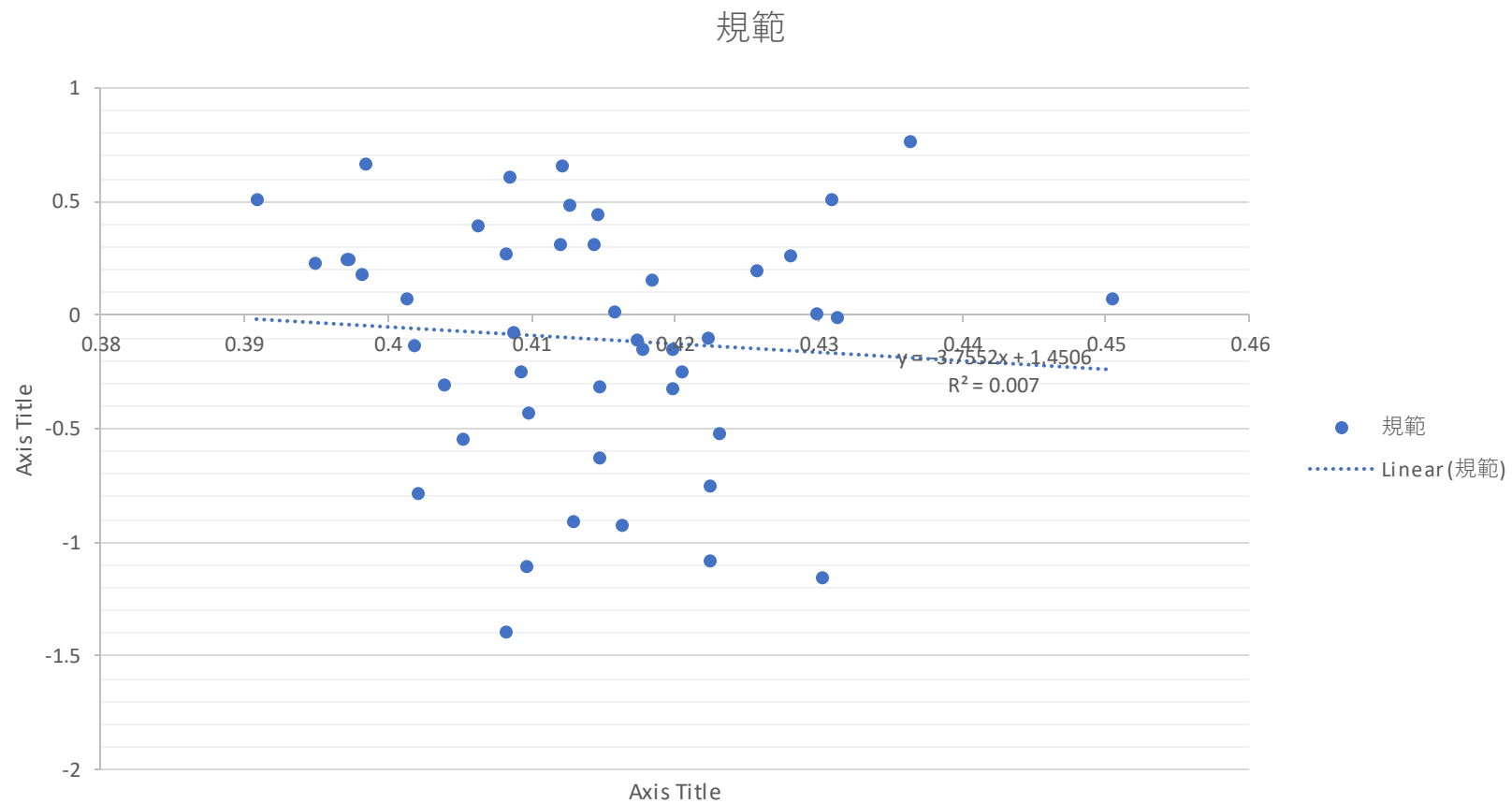
信頼



信頼とジニ係数の関係

- 信頼とジニ係数には正の関係
- 自分の周りの人(隣近所、親戚、職場や仕事)が信頼できる場合、都道府県の格差が大きくなる。要藤によると、経済成長には影響を与えていないので経済にはむしろ悪い影響を与えている。
- 仕事を頑張る人が仕事をやりやすく所得が高くなり、そうでない人と格差が広い。
- 決定係数が0.027と低いので、信頼がジニ係数を説明できる割合は少ない

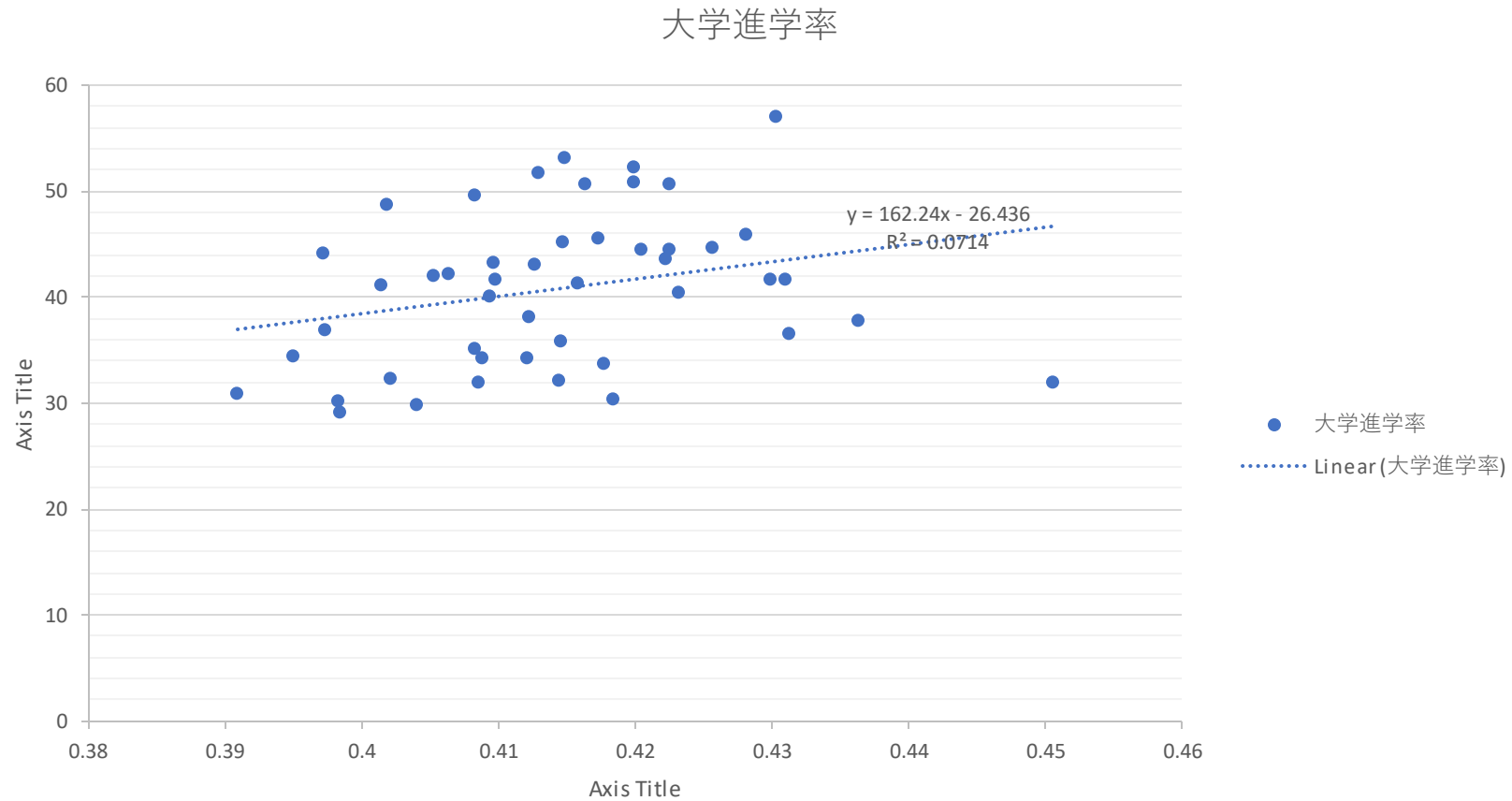
規範とジニ係数



規範とジニ係数の関係

- 規範とジニ係数には負の関係
- 規範は募金金額やボランティア活動行動者率や公共心が高い都道府県ほど不平等が低い。要藤によると経済成長にも正の影響を与えている。それゆえ、規範は成長と格差の両方に良い影響を与えている。
- 決定係数が0.007と低いので、信頼がジニ係数を説明できる割合は少ない

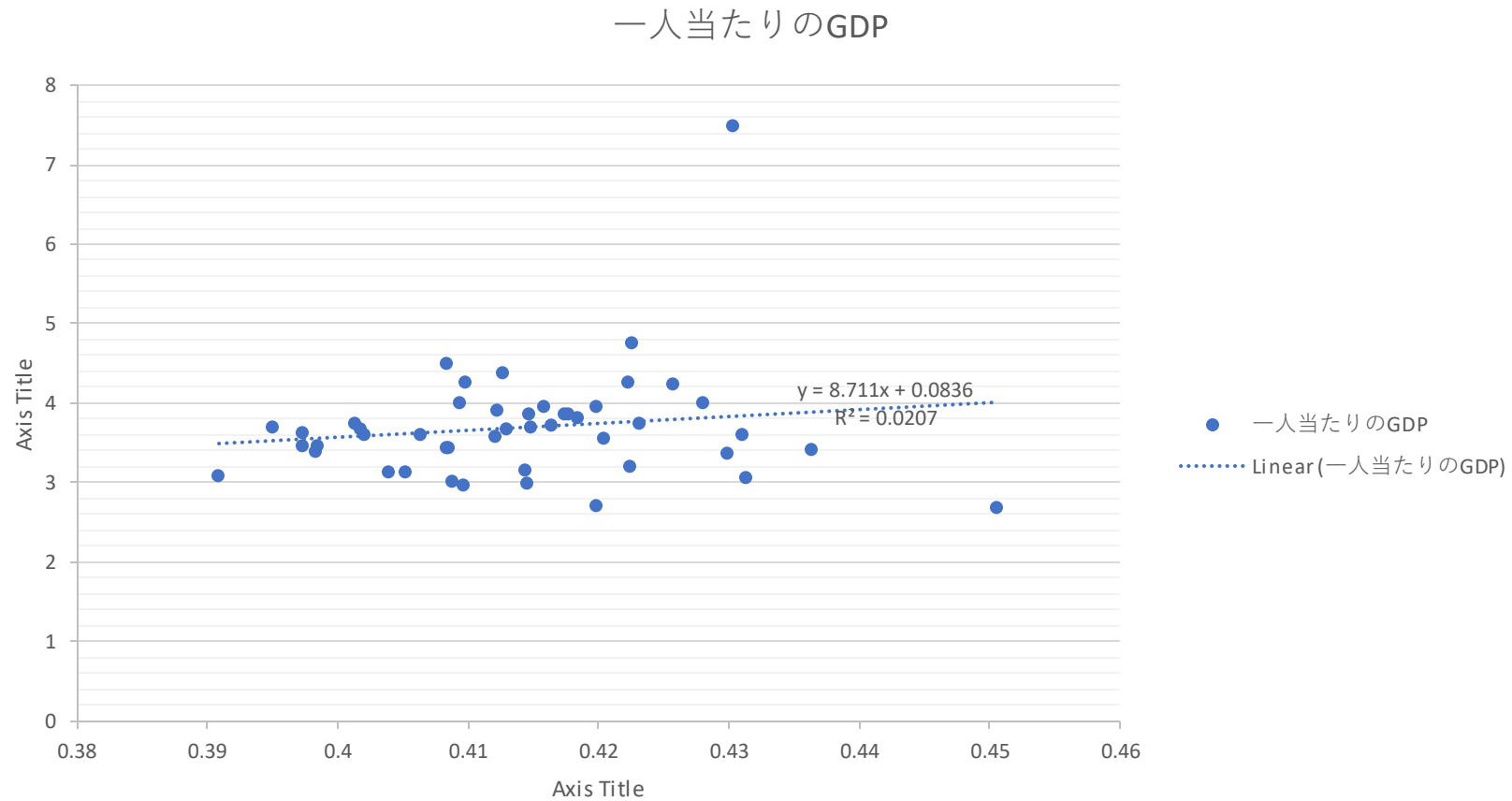
大学進学率とジニ係数



大学進学率と ジニ係数の関 係

- 大学進学率とジニ係数には負の関係
- 大学進学率が高いと、高卒者に比べて給与が高くなるので、所得格差が大きくなっている。
- 決定係数が0.007と低いので、信頼がジニ係数を説明できる割合は少ない

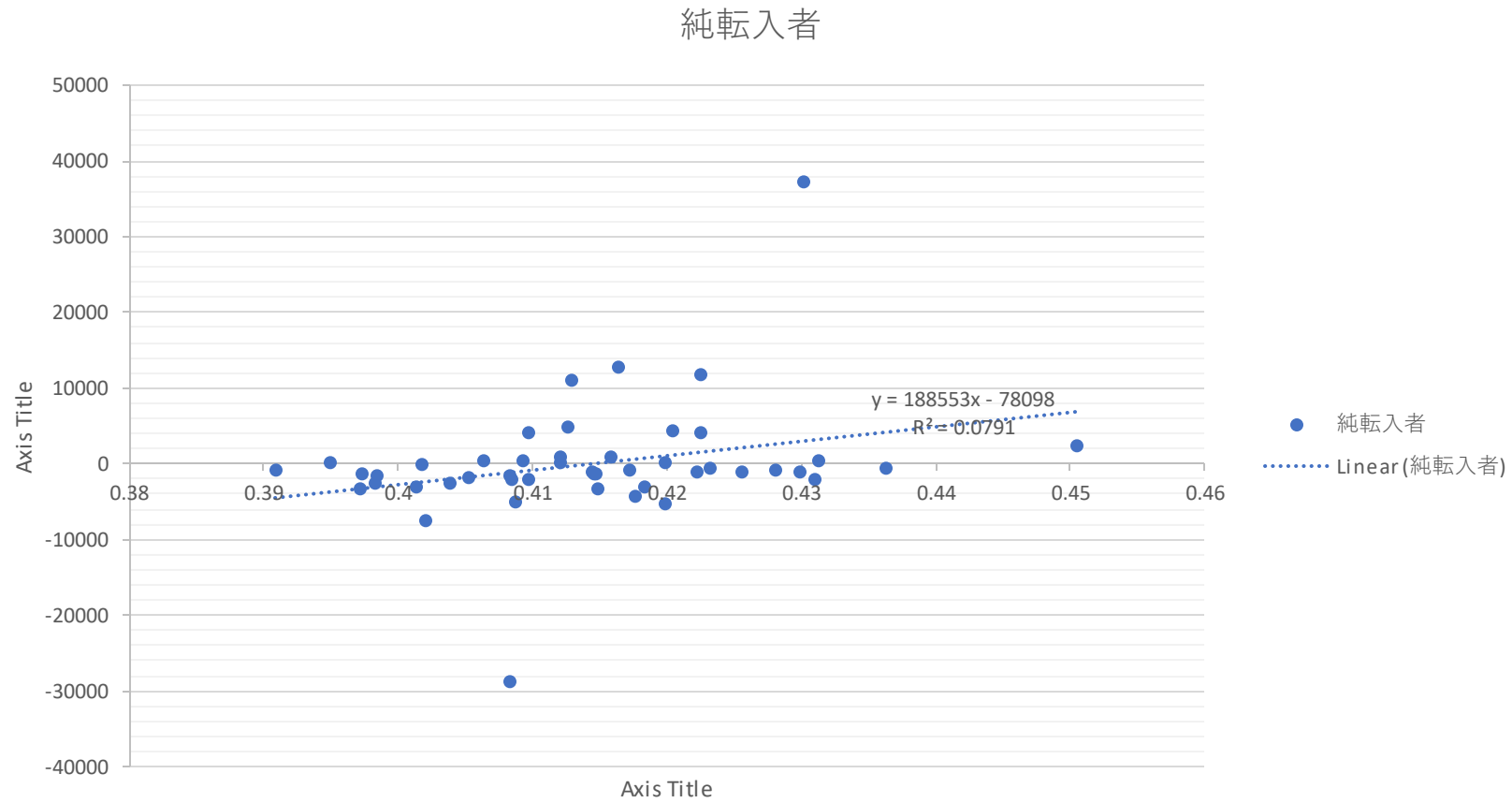
一人当たりGDPとジニ係数



一人当たり GDPとジニ係 数の関係

- 一人当たりGDPとジニ係数には正の関係
- 所得の高い都道府県ほど、不平等が高いことがわかる
- 決定係数が0.0207と低いので、信頼がジニ係数を説明できる割合は少ない

純転入者とジニ係数



純転入者とジニ係数の関係

- 純転入者とジニ係数には正の関係
- 純転入者が多い都道府県ほど、不平等が高いことがわかる。
- データがないのでわからないが、所得が高い人および低い人が他の都道府県に移動している
- 決定係数が0.0791と低いので、信頼がジニ係数を説明できる割合は少ない

今後の研究

- 本稿は簡単な回帰分析を行ったので、逆の因果、見せかけの回帰等の問題を回避できていない。それゆえ、不平等とソーシャルキャピタルの因果関係を知るために別の手法を用いる必要性、他の経済変数を回帰分析に含める必要があるかもしれない。

出典

データ出典

- 都道府県別進学率：社会・人口統計
- 都道府県別投資率：県民経済計算
- 都道府県別平均余命：社会人口統計
- 労働組合加入率：社会人口統計

データ出典 2

- ジニ係数(1999)：平成11年全国消費実態調査を加工
- 信頼(1996)：要藤(2005)
- 規範(1996)：要藤(2005)
- 大学進学率(1999)：社会・人口統計より高卒者、大学進学者より作成
- 一人当たりのGDP(1999)：県民経済計算（平成8年度 - 平成21年度）よりGDP、人口は社会・人口統計
- 純転入者(1999)：社会・人口統計

参考文献

- Knack, Stephen, and Philip Keefer. "Does social capital have an economic payoff? A cross-country investigation." *The Quarterly journal of economics* 112.4 (1997): 1251-1288.
- 要藤正任. "ソーシャル・キャピタルは地域の経済成長を高めるか?—都道府県データによる実証分析—." *国土交通政策研究* 61 (2005): 1-22.
- ソーシャル・キャピタルの豊かさを生かした地域活性化
滋賀大学・内閣府経済社会総合研究所共同研究
地域活動のメカニズムと活性化に関する研究会報告書(2016)

ご清聴ありがとうございました。
ございました。